厚生文教常任委員会報告事項請求資料

資料番号	資　料　名	担当課
1	小田原市芸術文化創造センター 市民説明会概要	文化政策課

平成２７年１２月　３　日

小田原市芸術文化創造センター市民説明会概要

日　時：平成27年11月28日(土)　午後1時30～4時30分
場　所：生涯学習センターけやき　ホール
参加者：103名

1　開会（進行：文化部副部長）

・本日の流れ説明

2　あいさつ

【市長】

本日は、お忙しい中「芸術文化創造センター市民説明会」に多くの市民の皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。

後ほど、所管の課長から説明があるが、7月に開札した芸術文化創造センター建設工事の入札結果は、見込みを大きく上回る非常に厳しいものでありました。

入札金額が予定価格を20億円以上も超過するという結果について、大変ショックを受けるとともに、このような結果となったことについて、市長として皆様には誠に申し訳なく、また、芸術文化創造センターの予定どおりのオープンを心待ちにしておられた多くの市民の皆様のご期待に添えなかったことに対して、お詫び申し上げます。

全国的に公共工事で入札不調が多発している中、最近の落札事例を研究して、入札に向けては、余裕を持った十分な工期の設定、発注方法は分割ではなく一括とし、単独事業者の応札を可能とするなど、入札参加条件をなるべく緩和して、より多くの事業者が応札できるよう万全の態勢で臨みました。

そして、肝心の予定価格73億円弱についても、厳しい財政状況において、最大限確保したものであることも含めて、取り得る不調対策を全て実施して入札に臨みました。

しかしながら、結果を見れば、東日本大震災からの復興需要、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた建設需要による建築資材費の上昇や人手不足による人件費の高騰は、これらの不調対策を大きく上回るものでありました。

振り返ると、平成20年に私が市長に初当選させていただいた選挙では、「城下町ホール建設計画の見直し」をマニフェストのひとつに掲げた。その後、市長就任後に、小田原駅・小田原城周辺まちづくり検討委員会において、施設機能配置について検討を行った結果、市民ホールは三の丸地区に整備することが最適であるとの判断をしました。

そして、その後の基本構想、基本計画、基本設計、実施設計に至る過程においても、専門家の意見をお聞きするのと並行して、パブリックコメントや、様々な機会を捉えて、市民の皆様と意見交換を行い、その機会は100回以上にも及び、延べ3,000人以上もの市民の皆様に参加いただきました。

この間、決断をしなければならない、多くの機会があったが、その際には、言うまでもな

いが市民の皆様にとって最善である判断をしてきました。

私の決断に対して、当然のことながら、異を唱える方、ご批判をされる方もおられたことは承知している。しかし、私は、これらのご意見に対して耳を塞ぐのではなく、耳を傾け、正面から受け止め、次の決断への糧としてきました。

私は、芸術文化創造センターの整備に向けては、多くの市民や専門家とともに検討を重ね、その都度最善と考える判断をしてきたが、私の判断と異なる様々なご意見やお考えを含みながらも、この事業をお認めいただき、さらにはご協力をいただいた市議会や市民の皆様に対し、感謝申し上げるとともに、最終段階の入札において、不調となったことは、大変申し訳なく、改めてお詫び申し上げる次第であります。

本日の市民説明会は、芸術文化創造センター建設工事の入札結果を受け、今後の整備の方針である、「実施設計にとらわれない自由な発想による事業提案を軸に、整備の可能性を探っていく。」という判断について、説明するものであります。

入札から今後の方針を導き出すまで、9月19日には、意見交換会を開催して、市民の皆様のご意見を伺いました。

また、10月からは、「小田原市芸術文化創造センター整備に係るサウンディング型市場調査」を実施して、民間事業者の意見を聴取しました。

これらの結果については、後ほど所管の課長から説明させるが、入札後に実施した設計者との面談や専門家との意見交換、さらには市民の皆様や民間事業者からの意見、そして、9月定例会における議員の皆様との議論を踏まえ、熟慮を重ねた結果、本市にとって最善である今後の整備方針は、「実施設計にとらわれない自由な発想による事業提案を軸に、整備の可能性を探っていくことである。」との結論に至ったものであります。

結論に至るまでの論理的なプロセスにつきましては、後ほど、私から改めてご説明するが、入札結果が判明した7月下旬から、市民の皆様には、芸術文化創造センターの整備について、何かとご心配をおかけし大変恐縮しています。

方針を示したからと申しても、事業提案を実施に移すまでには、まだまだ多くの課題が残されています。

さらには、将来を見通すことが極めて難しい社会情勢の中、今後は、本市を取り巻く諸事情の予期せぬ急激な変化もあるかも知れない。大型事業を推進する上では、こうした様々な要素を考慮しながら、これからも状況の変化に対応した判断が、迫られると見込んでいます。

本日は、大枠の整備の方針を説明するということで、市民の皆様にとって、まだまだ、内容が物足りないと感じられるかもしれないが、なるべく早く説明したいという想いから説明会を開催したことを斟酌いただくとともに、これからも、皆様から忌憚の無いご意見をいただき、私はこれをしっかりと受け止めて、整備に取り組んでまいる所存であります。

最後に、改めまして、市民の皆様におかれましては、芸術文化創造センター整備に向けて、より一層のご理解とご協力をよろしくお願いして、冒頭のあいさつとさせていただきます。

3　説　明

【文化政策課長】

それでは、私から、お手元の資料の順番に説明させていただきます。

9月19日の意見交換会にご参加いただけなかった方も居られると思いますので、まずは、簡単に入札から意見交換会までの経緯について少し振り返らせていただきます。

資料1「入札から意見交換会までの経緯について」をご覧ください。

「1　建設工事の入札結果について」ですが、「(1) 開札執行日」のとおり、平成27年7月23日（木）に建設工事入札の開札を行いました。

「(2) 予定価格」ですが、現行予算は73億円弱でございますので、予定価格を税込みで7,297,486,560円としておりました。

これに対して、「(3) 入札状況」ですが、鉄建建設㈱の1社のみから入札があり、第1回目が予定価格を上回っていたため、同日に第2回目の入札を行ったところ、税込みで9,388,440,000円の応札がございました。

「(4) 入札結果」のとおり、入札金額が予定価格を超過したため、入札は不調となりました。

この入札結果を受けて、8月に、市では、増額して直ちに再入札はせず、今年中を目途に「2　今後の対応の4つの選択肢」から最適な結論を出すことといたしました。

この4つの選択肢の具体の内容ですが、「(1) 延期」は、市民会館を改修し、整備時期を遅らせるものでございます。

「(2) 設計見直し」は、仕様を大幅に見直し、現行予算内に収めるよう再設計を行うものでございます。

「(3) 分割工事」は、大ホール等を先行して整備し、小ホールは先送りするものでございます。

「(4) 事業提案」は、公募型プロポーザルを実施して、民間企業から広く事業提案を募集し、現行予算内で整備をするものでございます。

そして、4つの選択肢について、市民の皆様のご意見をお伺いするため、「3　意見交換会の開催概要」のとおり、第1回意見交換会を9月19日（土)、午後2時から6時まで、市役所大会議室で開催いたしました。当日は109名もの市民の方々にご参加いただきました。

当日は、まず、市から入札の結果、さらには、今後の方針の4つの選択肢である、延期、設計見直し、分割工事、事業提案について、それぞれの内容の説明、さらには、メリット、デメリットについても説明いたしました。

次に、「4　設計者の考え」のとおり、設計者の新居千秋氏から、今後の方針について、新居氏の考えが披露されました。

入札不調の原因への設計者としての見解の後に説明された新居氏の考えは、今後の方針としては、(1) のとおり、分割工事が一番であるというもので、その理由としては、(2) の「ア」から「カ」に示してありますとおり、小ホールを除けば現行予算内で落札の可能性が高いこと、座席の一部使用や照明などを工夫すれば、大ホールを小ホール的に快適に使えること、開館の遅れを最短にできること、小ホールが無い分、ランニングコストが軽減できること、小ホール予定地をイベント広場として利用できること、小ホールの設計図があるので、

後年いつでも整備が出来ること等が説明されました。

これらの新居氏の考えについては、当日参加された市民からは一定の理解は得られたものと考えております。

次に、当日参加された市民の方々には、4つの選択肢それぞれについてご意見をいただけるよう用紙をお配りして、その中で代表的なご意見を発表させていただき、これを踏まえたうえで意見交換を行っていただきました。

当日は、25名の市民の方からご発言をいただき、これを簡潔にまとめたものが、「5　意見交換会での参加者からの発言」でございます。

①の「入札結果は残念」だ。というものから、次のページにございます、㉕の「今後は、ランニングコストも示して欲しい。」というものまで、様々なご発言がございました。

すべてをご紹介させていただきたいところでございますが、お時間もございますので、主なご意見を紹介させていただきますと、延期をせずに整備を進めて欲しいという主旨のものが多く、特に分割工事で小ホールを諦めてでも整備を進めて欲しいというご意見が目立ちました。

次に、資料番号2「サウンディング型市場調査の概要について」をご覧ください。

「1　調査について」ですが、本調査は建設工事の入札結果を受けて、芸術文化創造センター整備の今後の方針としての4つを選択肢から、方針を検討するに当たり、民間事業者との対話を通じて、整備の可能性を調査するものでございます。

「2　目的と効果」ですが、目的は、民間事業者の事業手法等に関する柔軟かつ優れたアイデアを収集することでございまして、行政から現況を提示して対話をすることで、効果といたしましては、民間事業者の自由な発想やノウハウを整備に生かすことが期待できるものでございます。

「3　実施スケジュール等」でございますが、「(1) 対象者」は、芸術文化創造センター整備等を実施する意向を有する法人または法人のグループでございます。

「(2) 調査の流れ」でございますが、記載のとおり、公表から、事業説明会及び現地見学会、そして、提案の概要についての資料を提出いただき、その内容について本市との対話を実施してきたところでございます。

その結果の概要につきましては、参加者に内容を確認したうえで、本日、公表をさせていただくものでございます。

具体には、「4　結果」にございますように、「(1) 参加事業者」のとおり、4業者に参加いただき、その事業者別内訳は、サービス業が1社、建設業が3社でございました。

「(2) 実施結果概要」でございますが、「ア　A社（サービス業)」からは、「設計施工・運営管理一括やPFI方式での事業提案が可能である。」との提案をいただきました。

「イ　B社（建設業)」からは、「事業提案で、市が予算の範囲内で整備出来る諸施設を建設して、整備出来なかった施設は収益施設と合わせて民間が建設する。」との提案をいただきました。

「ウ　C社（建設業)」からは、「小ホールを除いた分割工事が現実的である。」との提案を

いただきました。

「エ　D社（建設業）」からは、「小ホールを除いた分割工事も有力ではあるが、条件によっては、設計施工を含めた事業提案も考えられる。」との提案をいただきました。

さらに具体の内容につきましては、「（3）対話の内容」のとおり、「ア　A社（サービス業）」からは、「①入札不調の原因」として、「大手ゼネコンに確認したところ、市の予算は、施設規模から想定される建設費とかけ離れたものでは無い。」、「しかし、実施設計のデザインは、予算内に収まらないものであった。」ということ、「②今後の整備方針や事業手法についての考え」については、「実施設計のデザインをもとにした設計見直しでは、予算内で収めることは不可能である。」、「小ホールを除いた分割工事では、一見、ランニングコストを低減できるように見えるが、大ホールを小ホール的に使うことは、大ホールの市民占用が増えて興行が減り、収入減のリスクが高まるため、ランニングコストの大きな低減には必ずしもならないものである。」、「運営上、興行面からも大ホールと小ホールの両方とも必要ではないか。」、「当社は独立会社なので、企業グループに関わらず、いずれの大手ゼネコンならびに運営系企業ともコンソーシアムを組成して、設計施工・運営管理一括やPFI方式での事業提案が可能である。」、「整備まで相当の期間を要するが、施設整備と運営・管理を含めた総事業費としてのコストパフォーマンスを考慮すれば、現在の計画を見直して、PFI方式が望ましいと考える。」、との意見をいただきました。

次に、「イ　B社（建設業）」からは、「①入札不調の原因」として、「東京オリンピック・パラリンピックを控え、需給バランスが崩れており、人件費や資材費が積算よりも高騰している。」、「実施設計では、コンクリートでデザインの特徴を出しているため、施工がしづらく、現在特に不足している型枠職人を多く確保しなければならず、コンクリート打ち放しは、積算以上に建設コストを押し上げている。」ということ、「②今後の整備方針や事業手法についての考え」については、「実施設計をもとにした設計見直しでは、到底予算内で収めることは出来ない。」、「小ホールを除いた分割工事でも、予算内に収まることは難しいであろう。」、「事業提案で、予算内での設計施工との意見は、他社からも出てくるであろう。」、「しかし、当社の考えでは、市が予算の範囲内で整備出来る諸施設を建設して、整備出来なかった諸施設は収益施設と合わせて民間が建設する事業提案も可能性はある。」、「この場合、民間で整備した諸施設について、市では民間に賃料を支払う必要がある。」、「一方、民間は収益施設のテナントからの賃料が入り、市には地代を支払うので、市が負担するランニングコストの低減に寄与することも考えられる。」、「事業提案とした場合に参加するかどうかは、収益施設の採算性が重要であるため、柔軟な提案条件を求めるとともに、採算性を精査したうえで、対応を決めていくこととなる。」、というご意見をいただきました。

次に、「ウ　C社（建設業）」からは、「①入札不調の原因」として、「一番の原因は、現場作業員の人手不足であり、現場作業員確保のために人件費が高騰していることが、積算以上に建設コストを押し上げている。」ということと、「②今後の整備方針や事業手法についての考え」については、「小ホールを先送りする分割工事が最も早期に整備が出来る。」、「分割工事以外の選択肢では、新たに多額の設計料を要することになる。」、「設計見直しで大幅に設計を見直しても、予算内に収まるかは、予想の範囲内でしかない。」、「事業提案のPFIでは、そ

の手続きにかなりの期間がかかるため、市民会館の改修を迫られることもあり得る。」、「事業提案の設計施工では、市民の意見を反映できるのは条件（要求水準）作成までであるので、機能重視の施設には向いているが、シンボル的施設には向いていない。」、「よって、ここまで市民との合意を重ねてきた実施設計を生かした分割工事が現実的である。施設整備実現に向けて、予算内に収まるよう設計事務所が中心となり設計見直しをすることが必要である。」、という意見をいただきました。

最後に、「エ　D社（建設業）」からは、「①入札不調の原因」として、「まず、市の積算単価と実勢価格がかけ離れていることが考えられる。」、「また、仕様の検討などが必ずしも十分ではなかったのではないか。」ということと、「②今後の整備方針や事業手法についての考え」については、「設計を見直すとしても、仕上げの変更では、建物はコンクリート打ち放しであるため、建設費を大幅に低減できない。」、「実施設計を生かしたVE（技術提案）で仕様変更しても、予算内で収めることは出来ない。」、「そこで、実施設計を生かして建設費を低減するのならば、分割して小ホールを後施工とすることも有力な選択肢の一つである。」、「この場合にも、VEを取り入れることが前提となる。」、「しかし、小ホールを除いた分割工事で予算内に収まるかは、自社で積算をしない限り、明確にすることは出来ない。ただし自社で積算するにしてもかなりな費用が掛かる。」、「事業提案ならば、設計施工として予算内での提案が出てくる可能性はある。」、「一般的に、設計施工のホールは全国数多くあり、ホールで一番大切な質も問題無いと思われる。」、「事業提案では、提案の条件（要求水準）をどの様に設定するのかが重要であり、基本計画の諸室やスペックなどの全ての整備を目指して要求水準を厳しくすると、予算内での提案は出来ないと見ている。」、「また、要求水準の作成及び提出された提案の査定には、中立の立場の専門業者を関与させることも考えられる。」、「要求水準の作成に基本計画をベースで取り組めば、整備の遅れを最小限に抑えることが出来る。」、「事業提案とした場合に参加するかどうかは、要求水準次第である。」、というご意見をいただきました。

結果をそのまま、読ませていただきましたが、提案の内容については、参加者のアイデアやノウハウが詰まっていることから、公表に際して参加者の了解を得たもののみを記載させていただきました。したがいまして、これ以上の調査の内容につきましては、公表することは出来かねますので、ご理解いただきたくよろしくお願いいたします。

以上を持ちまして、私からの資料１及び２についての説明を終わります。

【市長】

私からは、資料３「今後の方針について」を説明させていただきます。

ただ今、文化政策課長から主に意見交換会とサウンディング型市場調査の結果について、説明をさせていただきました。

その経緯の中で、改めて浮かび上がってきた事項についてまとめて考察したものが、資料３「今後の方針について」の「１　選択肢に対する市の見解」であります。

ここには、４つの選択肢、それぞれについての見解をまとめてあります。

まず、「（１）延期」では、「ア　多くの市民は、延期を望んでいない。」こと、「イ　市民会館の老朽化が著しく、早急の対応が求められている。」こと、「ウ　市民会館の改修には、多

額の工事費を要する。」こと、「エ　市民会館の改修後に芸術文化創造センターを整備すると、二重投資となる。」ということが挙げられます。

次に、「（2）設計見直し」では、「ア　実施設計の見直しには限界があり、施工者の観点からVE（技術提案）で仕様変更しても、予算内に収めることは出来ない。」ということが挙げられます。

次に、「（3）分割工事」では、「ア　小ホールを除いた実施設計を生かすことが出来る。」こと、「イ　一番早期に整備することが出来る可能性がある。」こと、「ウ　予算内に収まるかは断言できず、再び入札が不調となる可能性がある。」こと、「エ　後年、小ホールを整備すれば、さらに建設費がかかる。」こと、「オ　高い利用率が見込まれる小ホールを整備しないと、大ホールの市民占有が増えるなど、運営面での課題が多い。」こと、「カ　小ホールを整備しないことは、市民要望と大きくかけ離れるものである。」ということが挙げられます。

最後に、「（4）事業提案」では、「ア　提案の条件（要求水準）の作成が必要であるが、その作成に基本計画をベースで取り組めば、整備の遅れを最小限に抑えることが出来る。」こと、「イ　民間事業者から前向きな意向が示されている。」こと、「ウ　入札不調のリスクが無く、事業者が決まる。」こと、「エ　設計料も含めて予算内で整備を行うことで、財政的な負担を抑えることが出来る。」こと、「オ　実施設計に捉われずに諸施設の配置や機能を検討することで、予算内で小ホールも含めた整備の可能性を探ることが出来る。」こと、「カ　実施設計と比べて、デザインよりも機能を重視する施設を目指すことになる。」ということが挙げられます。

そして、今後の方針を決定するに当たり、私は、この他にも整備推進委員会の委員、また、設計者にも直接お会いして、考えをお伺いしました。

さらに、9月19日の意見交換会の様子もつぶさに報告を受けている。その他、直接お手紙をいただくなど、様々な場面においていただいた貴重なご意見も踏まえ、建設費を増額しないことを大前提に、財政事情など本市を取り巻く状況を総合的に勘案した結果、「2　今後の方針」のとおり、「実施設計にとらわれない自由な発想による事業提案を軸に、整備の可能性を探っていく。」こととしました。

今後の方針の理由は、先ほど述べた見解と重複する部分があるが、大切なところなので、改めて申し述べさせていただきます。

今後の方針については、まずは、「早期の整備を望む市民の意見」、そして、「整備の確実性」、さらには、「財政的な負担」、それから、これは一番大事な点であるが、「性能や質などの整備内容に対する市民要望の最大限の実現化」の4点を重視しました。

まず、「延期」は、市民意見、市民会館の現状、市民会館に多額の改修費を要すること等から選択することは出来ないものであります。

「設計見直し」は、予算内で整備することは不可能であります。

「分割工事」は、意見交換会で設計者から説明があり、市民からは一定の理解が得られと思います。確かに、早期整備の可能性はあるが、依然として入札不調のリスクがあり、後年、小ホールを整備すれば、さらに多額の建設費を要することになる。また、市民の利用率が高い小ホールを整備しないことは、市民要望と大きくかけ離れるものであります。

「事業提案」は、提案の条件（要求水準）を作成する必要はあるが、その作成に基本計画をベースに取り組めば、整備の遅れを最小限に抑えることが出来る。また、民間事業者から前向きな意向が示されており、入札不調のリスクも無い。さらに、設計料を含めて予算内で整備を行うことで、財政的な負担も一番少なくすることが出来るものである。実施設計にとらわれずに諸施設の配置や機能を検討することで、小ホールを含めた整備を追求することが出来るものであります。

入札不調の原因の一つが実施設計のデザインにあると指摘する声もあり、整備の確実性が高く、予算内で、基本計画をベースとした市民要望を最大限反映していくために、実施設計にとらわれない事業提案を軸に今後も整備の可能性を探っていくことが市民の皆様の期待に応えることであるとの結論を導き出したものであります。

今回の説明会では、冒頭のあいさつでも述べさせていただいたとおり、大枠の整備方針をお示しするということに留まるが、事業提案を軸に、今後も整備の可能性を探っていくことで、整備の実現性の確度を高めていくとともに、整備スケジュール、諸施設や機能などの整備の具体的な内容を詰めてまいりたいと考えています。

私は、入札不調からこの4ヶ月近く間、芸術文化創造センターの整備についてどうするか思いを巡らし、様々な情報を収集しながら、今回の決断をしました。

実施設計にとらわれないことは、その策定に直接関わっていただいた市民の方々、また、オープンを心待ちにしておられる市民の皆様に大変申し訳ない気持ちで一杯であります。

しかし、この方針は、市の責務である最後まで整備の可能性を探っていくことを最優先として導き出したものであり、これまでの市民参加による議論の積み重ねも、しっかりと生かしていくことができるものであります。

最後に、今回の判断は、これまでと同様、市民の皆様のご意見を十分に受け止め、予定価格から入札金額が20億円以上もオーバーするという重大な局面の中では、大胆かつ冷静な判断が求められたが、考え得る選択肢と判断材料を踏まえたうえで、市政全体における事業推進と財政運営の最適化という観点から、最も合理的な結論を導き出したものであります。

それでも、この判断に対して、市民の皆様の中には、異を唱える方、ご批判をされる方もおられるとは思う。しかし、改めて申し上げるが、この判断は、市民にとって、最善のものであると確信しています。

本日は、方針を決定したことでの説明会であり、皆様に詳細を説明できない部分もあるが、今後、市議会での議論等をしっかりと受け止めて、私は、整備に取り組んでまいたいと考えているので、今後も、よろしくお願いしたい。

4　質疑応答

【市民1】

4つの選択肢という手法をとったことに対して、遺憾に思うとともに抗議する。この事業失態は、入札不調によるものだけではないと考える。7年間この事業に携わってきたが、市民の意向と行政の姿勢がかみ合っていない。

簡潔にということで、要点を5つにまとめて発言する。

1. 用地の選択が問題である。小田原市にとって小田原城址とはかけがえのない100年、200年続く大切な財産である。この三の丸地区を選択し、用地の拡張に尽力されたと思うが、白紙にしていただきたい。都市計画的な配慮は大切なものだ。お堀端通りに関しては、商業地区であるにもかかわらず、高度制限に一定の厳しい制限がかかっている。厳しい規制があるということは、小田原城址に配慮して作ったということであるから、一般的に言うと500メートル範囲に関しては、きちんとした城址に対する配慮が必要である。小田原市がこのような巨大な建造物を馬出門の前に建てることは愚行だと考える。加藤市長の所信表明をきちんと守ってほしい。

2. 商業地域であるが、静謐さも必要な地域となってくる。ホールは賑わいを催すものである。賑わいを催すものは、ぜひ駅前に集約するべきであり、駅前の商業活性化に役立てるべきであると考える。また駅前の再開発が拠点施設整備課によって進められているが、また調査などをしてホテルやコンベンションホールを作ると言った話が出てきているが、平成元年から何年やってきているのか。この愚行をもう一回繰り返すのか。私は涙が出るほど悲しい。是非、止めてほしい。文化部に市民ホールを作る行政能力がないので、文化部から拠点施設整備課へホール建設について移管してほしい。市民ホールを作ってほしいと思っている一人であるので、ぜひ、配慮願いたい。

【市長】

用地の選択制についてと静謐さを求めるものであるので、賑わいは駅前へということが要点だったと思う。用地選択については、城下町ホールのプロセスの中で携わってくれた市民1さんからのご意見、方針を変えたことへのご意見は承知している。就任後のさまざまな検討の中での選択であるということを言いたい。芸術文化の拠点をもっとも文化的価値の高い場所に建てることに意義もある、あそこを活かして市民の芸術文化の力を高めていく。素晴らしい空間を作って、市民の誇りにする。そこから、様々な力が育っていく。そのことに意義があることを理解いただきたい。

また、静謐さであるが、静謐であるから文化事業ができることもあり、あそこで様々な興行、音楽、演劇などを行い、舞台後の余韻を楽しむ、あの場所であることから、楽しめるのではないか。また事業に意味が出る、価値が高まると思う。駅周辺に市民交流センターと駐車場がオープンしたが、駅寄りの方についても、当時あった100メートルを超えるタワーとか、規模の大きい商業施設というものではなく、駅周辺に必要な都市機能を整備するということで、現在取りまとめを行っているが、このことについては、別の機会にお話ししたい。また、このことについて、ご理解いただけると考えている。

【副市長】

文化部から拠点施設整備課の方へ所管替えしてもらいたいという意見があった。こういうことも心に留め、市民の皆さんと積み上げてきた対話など、文化部、現メンバーの中に蓄積があるので、今後それを活かす意味で、このまま継続で整備できるまでやるのがいいのでは

ないか。

ただ、体制としては、横の連携で建築職とも連携しながらやっている。その体制について強化することについては検討させて頂きたい。

【市民２】

自治基本条例の中で、最大限市民力を生かし、協働すると決めたが、市民の定義の中には市内の事業者、あるいは企業が入っている。市外の企業については入っていない。自治基本条例を定めた時の大きな方針「市民力・協働」という考え方と、今回の決定あるいは今後の文化政策一般について整合性、今後の精神など聞きたい。

【市長】

城下町ホールを白紙に戻し、積み上げてきたわけだが、あらゆる過程のなかで専門家、市民の皆さんに参画いただき、積み上げをしてきて、基本構想、基本計画、それ踏まえた基本設計、実施設計をしてきた。時間のかけ方と体制について、全国的に見て手厚く丁寧にやってきた。

最後の最後に入札不調となってしまったが、計画を作って行く段階、どんなプロセスにおいても、作り込みをする過程と事業化の過程で一定の判断が出てくる。できる限り物事の計画の作り込みや実施において、行政だけでは限界があると考える。指摘のとおり市民力と協働ということでいろいろな政策を進めているわけだが、今回のとおり、芸術文化創造センターの整備に向けては、推進をしていく方の中にも様々な意見があった。それをまとめて今回の実施設計に束ねられているわけである。一方で、市の財政状況、地域課題の山積する状況、こういう中で税金をどの程度分配していくのか、どういった形の整備を目指すか、事業化して予算を付けて議会で承認を受けて形にするというプロセスになる。作業をまとめていくのだが、どこかの段階で、判断して事業化していくというプロセスが入ってくる。

今回は、不調を受けて皆さんが丹念に作りこんできた市民力と協働の成果である実施設計というものがあった。だた、実際問題20億円という大変な金額の差がついて、しかも1社しか入札がないという異常な状況となってしまった。これについての原因はいろいろなところにあるし、いろいろな物が複層して、そういったものになってしまった。この局面をどうやって乗り切っていくのか、先程、話にあったようにそもそもという話もある。止めた方が良い、延期した方が良いというご意見もある。こういう中で一定の判断を下していくことが今のプロセスには必要である。今日の判断に至るまでにいろいろなご意見を聞かせて頂いた。事業者、専門家、市民の皆さま、設計者、こういったものを統合した中で、これまでの皆さま方が積み上げてきた成果を生かして、早く確実に整備するにはこの方針で整備することが必要であるという判断に至って、このような事業提案という選択をとった。したがって、すべてのプロセスにおいて、一貫して、市民の皆さんの合意形成でそもそも成立できない物もあるということと、今回の局面において、判断をして方針を決める局面においてどうしても必要であるということで今回の局面に立ち至っている。その点はご理解いただきたい。

【市民 2】

方向性として、例えば芸術労働組合とか市民の力が何らかの形で、資金面的なところでも行けるという方向が、企業でない提案が我々市民のほうから出る可能性もあるので、そういった方向もぜひ考えて頂きたい。

【市民 3】

前回の意見交換会で、設計者から示された小ホールを兼ねた大ホールという提案に非常に興味を持っている。出されている資料も含めて検討した。300 人規模の大スタジオを作ると、この大スタジオの内容が非常に充実している。演劇も音楽もできるし、舞台の移動もできるという内容になっている。小ホールを作るというこだわりから来ている問題について、今すぐ小ホールを作らなくても、いいのではないか。小田原市の人口がかなり激減していく状況である。大・小ホールを両方かかえて、採算に見合うような稼働率を維持できるのか。管理運営で、大ホールの使い方を工夫すれば解決できるのではないか。そういう意味で、もう一度これまで延々と市民の皆さんが積み上げてきた大きな成果を最大限活かす方向で是非、考えて頂きたい。今回の提案は、率直に言ってどうでもいい箱モノができてしまうのではないかと心配である。しっかり再検討していただきたい。

【市長】

新居さんから提示された分離案、9 月 19 日にも詳しく説明があったが、訪ねた時も改めて説明していただいた。新居さんに大変なご苦労をかけて取りまとめて頂いた実施設計は、非常に完成度の高いものである。あの形で不調にならずに、できていれば本当によかったのだが、そうなっていない。20 億円の開きがあり、1 社しか手を挙げなかったということはいろいろな意味があると思っている。市民 3 さんがいわんとする背景には実施設計に長い年月、多くの方の思いが込められている。例えば空間の作りこみにしても、スペース割にしてもどの辺にどれくらいスペースをとるかにしても、全部議論が投影されている。あれがまさに皆さんの心血を込めた成果物である。ただ、それが実際問題 20 億円の差をもって、1 社しか手を挙げなかったということも事実である。その中で、私たちは何を選んでいくか。成果としてまとめられている設計図書にこだわるのではなく、そこで費やされた議論の中身、何を皆さんが実現されようとしたのかということについて、当然記録として全部残っている。議論の内容についてもすべて把握している。それは基本計画をベースにしながらそれをしっかり踏まえて、次の要求水準というものをまとめていく作業をしっかりやっていくことが重要である。それを行うことで、安かろう悪かろうな建物が建ってしまうのではないだろうかといご意見かと思うが、そうならないようにコントロールしていく。そこにどれだけ限られた時間の中でエネルギーを使っていくのかであると考える。この要求水準をどれだけまとめていくかという作業は、今まで皆さま方と一緒にやった成果を踏まえて、私どものほうでやっていく。この過程のなかでは、当然皆さま方と少し確認をするような局面も作れないかと考えている。作業の組み立てについては、これから詳しく決めていくので、今日この場で詳しく言うことはできないが、そんな思いでこれから望んでいくことによって、ご不安のような安

いものをまた、景観に配慮のないものを作らないようにそこはしっかりとやっていきたい。基本計画には全部書かれているのでこれをベースとしてやっていきたい。この後も議論を生かしつつ、この後の作業に臨みたい。

【文化部長】

補足をさせていただきたい。所管部長として、皆さんにご心配をおかけしたことについて、お詫び申し上げたい。また、本日お運びいただいたことに感謝申し上げる。今日初めていらした方もいらっしゃるかと思うが、そのことについても感謝申し上げ、これからも是非ご参画いただきたい。本日、資料として、基本計画の概要版を改めて皆さんにお配りした。大ホール・小ホールそして、ギャラリー、スタジオこれらが主な構成要素ある。前計画の反省にたって、小ホールの充実と展示施設の質的な向上と、それから練習場となるようなスタジオというところに配慮された計画となっている。この基本計画も市民の皆さんとともに、ものすごい密度で、議論をして専門家の委員と市民の皆さまで練りに練って作り上げたのが、この基本計画である。ですから、今この状況の中で、ただちに小ホールを外して建築するという議論になることは基本計画を作ってくるのに参画していただいた市民の皆さんに対して、私はなんと申し上げればいいかわからない。ですから、そこのところも是非、考慮いただきたい。

基本計画は市民の皆さんが心血を注いで作った物である。ですから、私どもは基本計画から出発したいと考えている。そうでなければ、なんのためにあれだけの時間を市民の皆さんと作ってきたのか分からなくなってしまう。ただもう一方で、今の経済状況、建設業界の状況の中で、基本計画に書かれていることが丸ごとそのまま実現するのかとご心配されている方もいらっしゃると思う。我々もそこは、危惧しているところである。その意味で、今後の事業提案の中で、要求水準を作って行くプロセスというのは非常に重要になると考える。

ただ、私たちはこれまでの設計者の方や専門委員の皆さんとご議論させて頂いてきた中で、そして、改めてサウンディング調査の中でこの基本計画を軸にしながら、この予算内で整備を進めていく可能性が一定程度見いだせたことによりまして、この道をとらせて頂いたことを改めて申し上げさせていただく。

【市民 4】

先程から違和感を持って座っている。何となく無駄な議論のように聞こえる。市長が初めて就任された時、前の市長が努力され、市議会・県議会一切承認を得て、積み上げてきたのにどうしてキャンセルしたのか。市民は何を望んできたのか。こんなに待たされることは望んでいなかった。市長の仕事の運び方、市長に向いてないのではないか。市長は市民が望んでいることをやるべきで、それが間違っているのであれば、リーダーシップをとって修正するのが市長の仕事である。その点が足りないと考える。前の市長が努力して市議会・県議会すべて承認を得て市長のハンコだけですむ状態であるものをそんなに簡単にキャンセルするものではない。どういう思いでキャンセルしたのか、市民に尋ねたのか。市民に尋ねることをしないで、キャンセルするのはおかしい。今ここで議論していることが無駄な感じがする。

【市長】

前回の経緯をどの程度ご理解いただいているか不明であるが、城下町ホールを巡ってはいろいろな議論がありました。市長に就任する以前のことである。ここにお越しの多くの方と思いを分かち合ってきました。冒頭のご挨拶にも申し上げた通り、かつての城下町ホール計画が、これから市民の皆さま、特に文化活動をされている皆さんにとっても非常に使いがっての悪いものであること、それが予算を掛けたわりには当初の整備の目的を達成できるのか、非常に疑問であること、いろいろな課題がある中で市長選も行われ、城下町ホールでない、きちんとしたホールを造ろうということで、掲げた私が当選した。そういった民意を受けて、就任後のさまざまな取り組みの中でいったん白紙に戻し、またそこから一つ一つ積み上げてきたという政治的なプロセスがあったということは是非、ご理解いただきたい。また、その後の、取り組みについて、きちんと民意、ニーズがどこにあるのか見極めて、そんなに時間を掛けなくてもいいのではないかという話もあったが、そうではないと考える。特定の意見を発した人たちの声だけをつかんで政策を打つということではなく、この地域が潜在的に持っている可能性というものをどうやって生かしていくのか、特に芸術文化の分野は経済に関わる部分もあるが、そうでない部分の価値も非常に持っている。そういうものをどうやって生かしていくのか、とてもセンシブルな所で繊細なコミュニケーションが必要で、市民の皆さんの可能性を丹念に見ていく必要がある。これについては、整備するにはお金がかかります。そういったところの兼ね合いも含めて、十分に議論を重ねて積み上げてきた。したがって、冒頭に申し上げましたが、正直言って時間のかけすぎだ、そんなに意見を聞く必要はないという声もあったが、そうではないと考える。積み上げて市民が持っている、あるいは地域が持っている可能性が形になっていくこと自体が、小田原の未来を作って行く原動力であると確信してやってきている。最終的には不調になって止まっているが、ここまで築いたこの取組みの価値というのは、私は大きなものがあると思っている。これからの小田原を支える重要なものであると確信している。そういった観念からもご覧いただければと思う。

【市民 5】

市民委員をやっている。民間事業者に委託すると聞いたが、バリアフリーでなくなるのではないか。車いすとか、高齢者とかの対応はどうなるのか。早く作ってほしいが、無理だったら民間ではなく分割工事でいいのではないか。

【文化部長】

これまでもバリアフリーについて配慮した施設にしてきたが、今後も当然そういったところは外すことなくやっていく。さらに建築物のバリアフリー設計指針が見直されたので、より要求される水準は高くなってくる。そのあたりも踏まえたものに、今後はさらになっていくということで、様々な方に使っていただける施設になるということを是非、ご期待いただきたい。施設が早く完成するということをお望みなのは、承知している。ただ、実現の可能性を探っていくという意味では、私どもの方針でやらせて頂くのが結果的には完成の早道に

なるのではないかというところで、選択させて頂いている。これも併せてご理解いただきたい。

【市民6】

はっきり申し上げて、文化芸術創造センターの建設に当たっては賛成である。ただし、これまでの一連の入札不調に関して文化部長よりお話しいただきたい。

1. 入札不調と言われたが、その原因として物価資材の高騰とありましたが、この約73億円の予算はいつごろ誰が作成したのか。

2. 入札業者が、1社しかいないのになぜ入札を行ってしまったのか。1社では結果、比較対象できない。価格の比較対象は1社ではできない。その出て来た価格90億円に対して、パニックっている。しかし、この90億円の価格が本当に正しいのかどうかその判断はいかがなのか。1社では比較対象できない。疑問がある。市の入札不調に対して「不調不調」とはばからない、マスコミから聞こえてくる言葉に対して、本当に市の方の考えが物価の高騰を盾に語っているのかどうなのか、真意を知りたい。普通一般的には、実施設計、基本計画をやった新居さんとかその方の会社が実際は積算価格、設計見積を出すはずである。で、設計見積をした時期は、たぶん6月か7月頃でなかっただろうか。そうすると、現時点の積算価格が反映されてしかるべきである。それをオリンピックで資材が高騰したからとか東日本大震災によって物価が高騰しているという理由づけは詭弁であると考える。現在の価格が反映され、そういう積算価格になっているはずである。ただし、この積算価格と現在の物価等の乖離は多少あるだろう。役所たるもの、この辺の事情を踏まえて積算価格を出させなければいけなかったと考える。

3. 一連の入札不調に対する検証を行ったのか。何故このような結果になってしまったのか、市の職員、市長、市議会議員の方々に質問したい。検証をしたうえでの今日の市民説明会であれば、いざしらず、十分な検証を行わず市民説明会を行うのではなく、実施設計をもとにして業者の協力を求める。私は実施設計ではないと考える、基本計画がすべてである。実施設計はそれに対して図面を引くだけである。もともと、基本コンセプト、基本計画が一番大事である。基本計画をもとにして、何社かに積算をさせる。あるいはコンペを行って、いろいろなアイデアを出してもらう。実施設計ではない。基本計画を元にすることになる。

4. 市長に尋ねたい。今回の芸術文化創造センターの建設にあたり、収支計算が完全に出来ているのか、完成後の。例えば、イニシャルコストがこれだけかかった、途中を含めてこれだけかかった。それに対して、減価償却はどうなのか。民間並みにある程度調達しなければならない。さらに収益はどうなのか。興行的に収入はどうなのか。さらにランニングコストはどうなのか。こういったものを全て明らかにして、勝算があると市民に前もって説明して、計画するならよし。ところが、収支計算がなされていないと思う。現在の単式簿記では恐らく、無理でないか。ヒルトン問題について、これから維持費がかかってくる、とても役所ではやっていけない。だから売却するのだと、そこには理があった。ならば、今回の芸術文化創造センターは維持費がどれだけかかるかそれくらいの収支予算をしておかないといけない。ゼネコンからのさまざまな意見、これがまだまだ甘い。もっともっとアイデアがある。いい

方法がある。そんなに急がないで検証に時間をかけるべきである。

【市長】

事業性やコストの検証は行っているのかどうかというところかと思うが、建設等に関わるものは様々物入りを把握し、シミュレーションし検証している。また、議会でも議論している中で、まだ示しきれていないもの、ランニングコストについては運営体制と施設規模によって、額も変わってくる。これについては、一定の幅を示しながら運営体制、施設の概要等決まった段階で明確にしていく。ただ、収支についてはいろいろなことを想定したモデルを考えている。

【文化部長】

予算であるが、基本計画時には想定された金額である55億～60億円の数字があった。その後、設計者が定まって、基本設計をしていくプロセスの中で、概算での積算をしていただいて、そこで65億円という数字が出て来た。市民の皆さんや議員の皆さんに説明しご理解いただいた。建設にあたって、入札に臨む際の予算編成についてはさらに実施設計をつめていただいていた設計者の方と積算をしたところ、最終的な詰めのところがなかったが、予算編成の段階で状況を判断させていただいて、73億円弱という数字を出した。設計者の積算をもとに考えていった。

1社入札の話だが、おっしゃるとおり1社だけでは比較するものがない。しかし、私どもとしては入札という制度の中で、応札のあった社に対しては入札に臨んでいただき、結果を出すというところしかございませんでした。制度的なものとして、1社だけでは入札を成立させないということができないので、その形で入札させてもらった。確かに、この数字が客観的に正しいのかどうかというところは申し上げることが非常に難しい数字である。

検証という話があったが、検証を客観的にやらせて頂くために、サウンディング調査をさせて頂いた。そこで、実施設計の評価をいただいた。4社からは意見をいただき、会社名等公表は出来ない部分を含んでいるため、また本日お示しさせていただいた資料は公表を合意頂いたところのみとなっており、分かりにくい表現もあると思う。

1つ分かったことは、この施設規模で73億円弱という予算というものが決して誤っていない金額である。他都市の施設と比較しても1平米単価としても小田原よりも高いものは鶴岡市と南陽市ぐらいしかないので、現在の建築業界の状況などを踏まえても建てられるであろうと見込んでいた。そういった意味でも予算としてそんなに誤ったものでなかったのではないかと考える。なので、一定の自信をもって入札に臨んだわけだが、結果としてはこうなってしまった。入札の結果、不調の原因は複雑な要因が、複数の要因が絡み合っているように我々は理解している。大きな経済情勢もあるし、複数のプロジェクト、オリンピック・パラリンピックを目指して建設業界が大きく動いていて、そういった部分での人手不足、今回の実施設計に対する事業者の評価というもの、これは、施工しづらいというコメントもあった。型枠職人との関係から積算以上にコストが上がってしまうというようなところである。事業者側としてもいろいろな事情がある中でリスクの可能性がある物に対して少し手控えられた

のかなど、複数の要因のため1社の入札と、この金額の開きに至っていると考える。

検証については、不十分であるところもあるかもしれないが、我々としては一定の予算額の考え方の妥当性と現在の実施設計のありよう、課題というのがサウンディング調査を通じて見えてきたので、結果として改めて基本計画に立ち返っていくような形で今回の方針を定めて、その中で可能性を追求していきたい。

【市民7】

お話しを伺っていると、金額面で折り合わなかったということが終始出てきている。今回の事業は、三大案件、中心市街地活性化プロジェクトの中の1つであると聞いている。それに対して、補助金が23億円出るということも当てにしている。それには、いつまでにはっきりさせないとその予算が流れてしまうのか。補助金が出なくなってしまうという大きな問題が出てくるのではないか。そういう意味で急いでいるのかなと。お金の問題があるのはよく分かるが、中心市街地活性化という大きな目標に向かってこのホールの役割というものを考えてはどうか。ただ安い、高いではなく、これに対して投資をする。これだけのものを投資したらこれだけのものが返ってくるということまで考えないといけないのではないか。

阿藤快さんが言っていた。「市長なんだかな。こんなもの造って赤字を残すだけだと。中途半端なものを作っても一流の人は来ない。本物のホールを作ってくれと。」ホールができて、中心市街地が活性化するのかそこをしっかりと考えて頂きたい。まだ決定ではないと思うが、新居さんの案を無にする。これは、新居さんだけでない。阿藤さんも含め小田原にいいホールを造りたいという人達の願いが集約している。小田原に新居さんが心血を注いで作ってくれた設計をお金が高いからと言って無にしようとしているのは、違う気がする。実施設計が2億円という話ではない。もっとかかる。お金で測れない物がここに集約している。これを無にするのは考えられない。

新居設計事務所を何人かで尋ねたが、新居さんが神様に見えた。新居さんは「お金の問題ではない、小田原によくなってほしい。今だったら造れるが、これが流れたら造れないと思うと。造った後もこのホールを通して街を活性化させることをお手伝いしたいと、自分はそのつもりで劇場を作ってきた。」劇場に対して天才的な方だからこそ、小田原のことがよくわかり、これだけ協力してくれた。出来上がったものが不調になった。では、小ホールを削ってやってはどうかと新居さんが提案しているのである。ちょっと手直しすれば使えると言っている。それを無視するのはどうなのか。実施設計にとらわれないと書いてあるのが、意味が分からない。新居さんの案も含めて考えていくとしていただきたい。新居さんは日本一ホールを作ってきた人で、その街を活性化してきた人である。新居さんが作られた案でできたホールは市民の財産になると思う。新居さんの意見をもっと市民に聞いてもらいたい。市民の人がいらないというなら、新居さんはこの件から引くと言っていた。今作らないともったいない。小田原はチャンスである。オリンピックやラグビーが小田原にやってくるし、注目されている。それなのに、ちゃんとしたホールがない。これから50年使う小田原の宝にしてもらいたい。新居さんの真心を市民の人に聞いてもらいたい。一部の人に間違った判断をしてもらいたくない。

【市長】

お金と成果物である芸文センターとの関わりについて、ちょっと違うと考えている。新居さんの設計は完成度が高い。基本計画に盛り込まれていた市民の皆さんや文化関係の団体の方からのいろいろな要望を可能な限りくみ取って、なおかつコストコントロールもしながら収めて頂き、模型も拝見したし、新居さんの思いも聞いた。なんとかそのまま行ってくれればと思っていたが、現実はこうなってしまった。そこに込められたいろいろな人の願い、新居さんのスキルというのも生かしていきたいという気持ちもあるが、一方で、1社しか入札がなく20億円も開きがあったというのも現実である。これをどうするかというのが、今突きつけられていることである。市政運営を預かる身として、外せないのは財政であり予算である。以前の城下町ホールが63億円という予算が示されていた。これについても坪単価やいろいろなスペックを見ていったら安くないと。もっとリーズナブルでシンプルなものをつくって、コストを抑えて行こうという議論をずっと行っていた。その中で、当初55～60億円くらい。

それがだんだん状況を見てこれくらいかかると上げて行って、最後、目一杯73億円で議会の承認を得て、事業化に向けたスタートを切ることができた。この73億円と94億円の間の21億円を埋めていくために、素晴らしい設計のためにこの数字を出してもいいじゃないかという考えに立つことはできません。全市的な問題にはお金が必要である。人の投入も必要である。この事業にかけられるものの予算は決めていかなければならない。ここで、私たちは金額の固定をした。

その中で94億円という札が入った実施設計の図面そのものを活かしていくことはなかなかできない。図面を引く過程で交わされたいろいろなディスカッションや、出された知恵やベースとなる基本計画などを生かして、そこに立脚して、近づけていきたい。しかし、73億円というのは守って行こうというのが私達の選択肢である。阿藤さんの話も出ました。今回の事は残念であるし、阿藤さんには新しいホールでいろいろなことをやっていただきたかった。悔やまれてならない。事業提案で、私たちの要求水準で出していくものが、阿藤さんが見てがっかりするものにしたくないし、するつもりもない。そういう気持ちで要求水準を作って行く。市民7さんがおっしゃっていただいた新居さんの仕事に対するリスペクトまた、市民の皆さんが積み上げた成果に対する尊敬、我々は皆さんよりも思っている。であるから、全体のバランスをとりつつ、予算も守ったうえでそれをどうやったらできるかというギリギリのところでこういう選択に至っている。この後まだまだ具体的な作業があるのでどういうふうに進めていくのか、どういう要求水準でまとめていくのか、いろいろな形で報告していくが、市民7さんがおっしゃったようなことは当然私ども同じ思いであります。いかにそれを裏切ることのないよう勧めていきたい思いである。ぜひご理解いただきたい。

【市民7】

実施設計にとらわれないと書いているが、新居さんが示された小ホールをカットすれば70億円以下で作れると言っている。そういうものがここに含まれると考えて宜しいのか。

【市長】

要求水準をこれから作って行くが、文化部長も答弁したが、今回の基本計画の中で、いろいろな議論があったが、最大の議論が小ホールにまつわるものであったと思う。これをどういうふうにするのか。段床式にするのか、平土間にするのか、いろいろな議論がありましたが、共通しているのは小ホールが最大稼働する施設であり、これをどうするのかというのが小田原の文化の一つの焦点であった。ここを外すというのはある意味、基本計画の最大の論点を外すことになる。今の考えではこの小ホールを設置するというのは要求水準で謳わなければならない。要求水準を決めた上で、限られた予算の中でいろいろな一定の条件を守りながら実現するためには事業者もいろいろな提案を出してくる。その中で何を削るかという裁量もある程度事業者に託すこととが出てくるかもしれない。

したがって、最後どういったプロポーザルが並ぶか具体的に予想は出来ないが、そういったものの中に、大小といくつかの機能を備えた物が出てくるかもしれないし、場合によっては小ホールを削って一定路線に抑えて他のスペックを優先してというのも出てくるかもしれない。どういったいものが出てくるのかということまでを要求水準で縛ることはできないが、少なくとも私たちの要求水準では小ホールを入れるべきだと謳うことになると思う。

【副市長】

交付金の関係で一点。今年度の予算が執行できない場合はゼロリセットとなる。もう一度、こういう形で芸術文化創造センターを建設したいと、国県に相談にいって、そこで交付金を獲得することになる。引き続き交付金が獲得できるよう努力していく。

【市民 8】

いくつかお伺いしたい。先程からのやり取りをお聞きして、私は今日のご提案と説明内容ではこれからも迷走を繰り返すのではないかという心配を払拭できないでいる。

早期に建設してほしい点では市民の多くの皆さんは一致していると思うが、これまでのいくつかの重大な誤りがあった点などをきちんと踏まえないと、例えば、用地拡張、市道の整備による変形した形とか、そういったことを含めて反省をきちんとしないとこれからもまだまだ更に建設が遅れるのではないかとの思いがする。

3 点ほど質問をする。

まず、何人かの人からご意見がありましたが、小ホールのところを切り離してという新居先生のご意見もあったようだが、何故、73 億円以内というふうに抑えないといけないのか。この点ですね。私は議会にいた時に 73 億円自体には反対したが、73 億円以内に何故しないといけないかということについて、説明がほとんどないように思える。

一部の方の意見でももっと予算をつぎ込んででもこの時期に、新居先生からも今がチャンスだと言う意見があるように。一方では市は大型事業、あるいは道水路整備、維持管理などインフラ整備に多額なお金を要するものを抱えている。

こういった両面から 73 億円以上出せないないのか、出すことがあるいは適当ではないのか。

もっと縮めた方がいいのか。こういった説明がまだまだ不十分である。

建設費を増額しないという提案だと思うが、その点をまずお聞きしたい。

2点目に、新居先生の提案について。私はある意味非常に現実的だと思った。小ホールを切り離してと言うご意見。しかし、今日の説明、資料によると、入札不調の原因の一つが実施設計のデザインにあると指摘する意見もあるという。

執行部として、あるいは先程の質問の説明でも、実施設計は市民力と協働の成果とたいへん持ち上げていながら、その入札不調の原因の一つが、実施設計のデザインと指摘する声もあるという。こういうまとめかたをするのでは、新居先生は怒るのではないかと受け止めている。

また一方で、これまで新居先生の実施設計はずっと執行部としてもたいへんすばらしいものが出来たと自負していたではないか。これをこういう仕方の反省は、私はないと思う。

それから、3点目。今回の提案については、入札不調のリスクはないとの説明があった。本当にそうでしょうか。何故、今回の事業者による事業提案の方法であれば、入札不調のリスクがないと言えるのか。先程から、入札の仕組みの質問が複数の方からあったが、説明しきれていないものがある。入札にかける際に、建設費の積算は国、国交省が定めた歩掛表などをもとにしてやりますね。ですから、無制限に金額をつけることは公共工事ではできないはずである。

今後は入札不調のリスクはこのやり方でもかかえていると思う。入札不調のリスクが無いという根拠を質問する。

付け加えるが、城下町ホールについての市長の見解が示されましたが、非常に使い勝手が悪いと。私はずっとこの議論の時に傍聴していました。多くの方の市民参加によって城下町ホールの議論も進んだ。間違えのない事実です。最終の所でHPシェルの事のみで大きな反対運動が出た。そう受け止めている。前の市長の時代に市民参加が無かったように言うのは間違えだ。ですから、これを含めて本当に冷静な議論と見直しが時間をかけて必要だと思う。

【市長】

私から2点ほど。まず、予算の話しであるが、73億円を固定するのか。うえに上げるという事の話しもあるのではないかということだが、よくご存じのとおり、財政状況、今後立て込んでいる大型案件、インフラ整備への大型投資の必要性、いろんなことがある。また一方で増高する民生費もあるので、とにかく予算についてはうえを決めて、これ以上上げないということを基本スタンスで定めることだと考えた。

そこを固定して取りうる選択肢を考えることが整合性を取ることとなり、全市的に整合性が取れるという考えである。

デザインのことだが、文化部長からも補足してもらうが、諸機能に関する議論は基本計画をベースに新居先生、市民の皆さん、専門委員の皆さんとも議論を重ね、機能面ではそうとう議論をし、実施設計では基本的な配置やスペースなどが決まり、いろんな仕様も決まった。

一方で、デザインについては、躯体にまつわることもあり、また、あるいは設計者の専権事項的なところもあり、そこのことについては、十分な議論があったか文化部長から聞きた

い。

デザインについては、建設資材等の高騰が無いときには、おそらく問題なかったと思う。ただ、一方では先程からお話しているように型枠工を多用するコンクリート打ち放しというものを躯体そのものに多用している。表面仕上げもそうだが。こういったものが、建設資材の高騰、人件費の高騰、型枠職人の不足と、極めてコストが高くつく状況に行っていたことと、今回の入札の過程で十分に見込めきれなかった。したがって、デザインの良し悪しではなく、高くつくことが、図面を引き実施設計を見定める中で、私どもも詰め切れなかったことについては、こちらにも責任があると思っている。

【文化部長】

まず、入札不調のリスクが何故、事業提案だと無いと言えるということだが、これは、簡単に申し上げると、入札という事を行わないからである。

つまり、金額の上限を定めて、その中で一定の水準のものを提案いただき、施工までしてもらうのであれば、そういう契約ができるということである。そこにいたるプロセスは簡単ではなく、要求水準があり、手続きを丁寧にするのは一定の作業がある。

先程のお話のとおり入札を続ける限り、公共単価と実勢価格の開きが今後も非常に読みにくい状況である。

ですから、今度、このやり方であれば、金額についてそもそも上限を定める中で設計や施工を含んだ形で契約してしまうとあれば、乖離が生まれないこととなり、不調のリスクが無いという事はそういった意味合いである。

新居さんの設計に対しては高く評価している。スタート段階からコストコントロールがあり、市民とのディスカッション、専門家との意見交換も取り上げて、実施設計に反映されていた。

今回のサウンディング調査の結果で書いているのは、入札不調に至った経緯を我々がどう認識するか、分析するかとうプロセスの中で、事業者から見たなかで実施設計がどのように見えているのかが重要であったことである。

我々は一緒に造ってきたものであるので、それに対して評価しているが、事業者側が造る側から見た時に、これがどう見えていたのかという事である。

その中では、資料の中にあるように、施工のやりにくさがひとつあげられている。デザインの話はなかなか難しいが、市長が言ったことにプラスすると、新居さんはコストを下げるために外壁の窓を極端に減らしました。結果として、そのままではただののっぺりとした壁になり、それを避けるためにアクセントをつけることとし、細かいリブをつけられました。

リブについては、型枠工の関係があり一定のコスト上昇をからんでいることが否めないということが、事業者から見た評価という事である。また、屋根の形状も施工のやりにくさと大きく関与している。

これは、新居さんの設計を私がうんぬんすることはないが、施工する立場から見るとそこに様々な施工上の課題が発見され、それが結果としてコストに跳ね返っているということだと思う。

そこのことは大変難しいことですが、そのためにここまで造りあげた実施設計に施工者側から厳しい評価をされてしまうと、造ってもらう方の手があがらない、何より1社しか応札がなかった厳しさが今回の件、建設業界のこの実施設計にくだされた評価だと思う。

これは実施設計そのものではなく、現在の建設業界の状況も大きく影響して、複合しての結果と思うが、これを我々は冷静に受け止めなければいけないと思っている。

【市民9】

初めて来ました。率直な意見、城下町ホールを造ること自体はいいと思いうが、今の立案についてはとても無駄だと思っている。

市民ホールの実施計画表、大ホール、小ホール、大スタジオこんなの3つ造って誰が喜ぶのか。大ホール客席数1,100席、誰が利用したいと思うのか、小ホールも大スタジオも造ったら予算も超えますよね。それに加えて73億円ものお金を投資する考えがおかしいと思う。このお金は市民の税金から払われていることは皆さんもご存知かと思うが、私達若者はこんなことに使われると友達も含めて知っていません。

何のために税金を納めているのか、その金を無駄に使ってほしくない。

市長もご存知かと思うが、何年か前に初めて就任した時に喜びました。若い人が市長になったら小田原を変えてくれるのではないかと希望でいっぱいでした。

加藤市長に代わって小田原が良くなったかと思ったら、何も変わっていないが率直な意見である。

世の中にはやってみないと分からないという言葉がある。やらなくても分かることがある。

まさしく城下町ホールですよね。三の丸にホールを造っても誰が行きますか。交通アクセスも不便で、それが小田原市を発展させると考えるのはおかしいと思いませんか。

もし、造るなら最初の方の意見のように駅前に造るべきだと思う。それなのに駅前ではなく三の丸にこだわる理由も私には分からない。

そして、地下街も出来ましたが、地下街は成功したと市長は話していますが、黒字ですと。黒字ですか本当に。私達の中で地下通路と言われている。誰があそこに足を運ぶんだろうと。やってみないと分からないと、やらなくても分かるは違う。やらなくても失敗に終わると多くの方は思っていたと思う。そう思いますよね。

2回も失敗したものを何故多額のお金を使って地下街を造ったのか、今回も城下町ホールにこんな巨額の73億円を使って、無駄な形で、中途半端なものをまた造るのは何故ですか。

造るのであれば、私達はホールに有名なアーティストが来て活性化するという考えなら、税金を納めますし期待もする。でも、現況には期待できません。

市長さんは先程何のためにやってきたか分からない。これを崩したら何のためにやってきたか分からないと言っていました。最初から私達市民は言っていた。このままだと予算オーバーだから小ホールは造らなくていいと。何のために造るのか、自己満足だと思いますよ。

私にはそう思いますし、本当に税金を納めているお金が無駄にこのように活かされているとしか思えない。私達若者がこのような場に来るのはあまりないと思うが、ちょっと今回は言いたいことがあったのでこの場を借りて言わせてもらいました。

【市長】

参加してもらうことが貴重です。とても若いのでいろいろな考えを率直に話してもらって貴重だと思いました。

一方で是非、小田原でどんな方たちがどんな文化活動をしているか、どんな歴史があって、どんな奥行きがあって、どんな可能性を持っているのか、これは是非、関心ないかもしれませんが、足を運んで見てください。

あなたの周りにたくさんの文化活動をされている方が大勢座っている。合唱にしても、絵画にしても、音楽にしても、いろいろな舞踊にしても、展示系にしても、本当に多くのすばらしいものが沢山ある。

それを今は大変古くなった市民会館を、皆さんにがまんして使ってもらって、車いすが入れないようなバリアフリーも悪く、そんな中でなんとか早く新しい良いものを造って、そういう人たちが気持よく活動できるように、また多くの方たちに来てもらうように、小田原の持っている魅力を伝える場になるよう確信を持ってやってきましたし、前回の城下町ホールを巡ってあれだけの方たちが動いたのはそういう思いを共有していたからだし、今回のこれだけの実施設計は不調になりましたが、これまで作業してきたのはそういう人たちの分厚い思いがある。これは知ってもらいたい。

まだ若いのでいろいろなところに足を運んで、いろいろな世界を見てほしい。そういった中で今日の場についてお話しいただき、広い視野で受け止めてほしいなと思う。

小ホールはいらないという話は今回の議論ではありません。小ホールこそしっかり整備してほしいということが、諸団体の共通の願いである。団体は大きなものばかりではない。施設を使うのは大ホールを使って興行収入をあげる人達だけのものではない。いろいろな方達がいろいろな形で使う。特に小さなグループの方達がいろいろな形で使うのが小ホールである。

だから今回、先程の言ったように小ホールの議論に一番焦点が集まって、そこでいろいろな議論を重ねていること、そういったこともあるという経緯を知ってもらいたい。

時間を許せば来てもらって、私達はいくらでも説明しますので、そういったことを知って、是非、このテーマを感じとってもらいたい。

やらなければ分からないということじゃないんですとのことですが、例えば、あなたがチャレンジした時に私は将来こうなるからこうするんだと決めるのでしょうか。私はこうやっていきたい、達成するか分からないけどやるんだということもきっとあるんだと思う。

今回の地下街もそうです。芸術文化創造センターもそうです。地域でやっているいろいろな市民活動もそうです。うまくいくかどうかはやってみないと分からないが、でも、こっちを目指して行こうとの思いがあってスタートした事業ばかりである。

ですから、それを成功させるかどうかは、そこにどんな人達が、どう関わってもらうか、そこにかかっているので、それをこれまで皆さんとやってきましたし、小田原の誇りである。

ただ、実施設計については残念ながら不調になったが、これまでの成果の中身は決して無駄にしないようにするのが今日の私からのメッセージとして話させてもらいました。

是非、青臭いと思われるかもしれませんが、そういう思いだと是非受け止めてほしい。

【市民 10】

市民会館を芸術文化創造センターと名称を変えたことに感動している。文化は生涯学習の場である。商店とかの活性化もあるが、人間の生涯学習の場でもある。その場の検討をされているということで是非、そういう活動ができる大人の学校を作ってもらいたい。学校は利益が出ないが教養という利益が出る。生きがいという物を皆さんが持っていけば、病気にならないような活動をすれば、少しでも長生き、健康でいられる。そういう場でもあり見えない部分もあるので、プラスマイナスを出すのではなく、利益を出すのは民間がやればいい、行政はそういう部分も十分配慮された施設を造って行かなければならない。課題もあると思う。その辺のところも市民として理解しなければならない。

【市民 11】

8 年間見続けてきた。市長、先程の想いがあるならば、もう少し事前に市民の声を説明会に来て聞くべきだったと思う。そうすれば入札不調はありませんでした。もっと責任感を感じてほしい。事業をやるのは 8 年、一企業として今、時代の経済の変化が 3、5 年です。さらにこの 8 年を過ぎて延長しようとする。二回もう延長しているわけです。三度目の延長となるわけです。どうお考えでしょうか、責任たるものです。それを全然感じ得ていない。8 年間のこの失敗を無駄にしたくない。さらに一回やり直してくれ、誰が信用するか。私は市長に言った。選挙 1 期目の 3 ヶ月、駅前にホールを建てるのをいきなりもとのさやに戻し、皆さんの声を聴くと言いながら、みんな船に乗って、さあ、行こうとしたら、どこに方向に行くのか分からない市長だった。私はそう提言した。まさしく、今の状況である。小さな活動をしている皆が同じ船に乗った。だけども、不調に終わった。さあ、困りました。それでは事業にならない。やり方があるのだ。市民の声を聞くのであれば、意見交換会に出るべきであった。入札不調は想定内である。市長は市民の声を聞いていない。市民の声をきちんと聞いていればこんなことにはならなかった。こういう形で、4 項目めを選択し、業者の目から、建てる側の目から、市長自ら建てる側でないのか。市民の為が分かってない。夢事でない。小田原市にいくつの公共施設があると思いますか。尊徳記念館、マロニエ、梅の里センター、いろいろな公共施設がある。そこで小さな市民活動をすることができる。大ホールでやるべきことでない。税金がかかってくる。月々の経費だってものすごくかかってくる。高齢化時代、人口減少、市長みずから人口を増やす政策をとってない。企業はどんどん撤退していく。その中で、文化芸術ホール。夢事を言わないでほしい。現実を直視してほしい。そういう意味で、自分の原点に戻った気持ちでこの構想を練り直してほしい。

＜いったん終了、市長退席＞

【市民 12】

2007 年から街づくりに関わっており、市民委員のみんなで心意気を合わせて、小田原わく

わくプロジェクトというのを作って、イベントを行い、市民ホールができることを応援してきた。この度のこの発表を新聞で見た時、意味不明でした。どういうことか全く分からず、土曜日の打合わせばかりでなかなか参加できなかったが、参加した人の情報を集約してここ一週間ずっと勉強してきた。先程市民7さんもおっしゃったとおり、魂の入った設計をそのままやめてしまうのは泣いても泣き切れない。どういう思いで打ち込んできたか。どう思っているんですか。小ホールの事をメインにしているが、市民が望んでいることは当然だが、市民が望むことを運営に反映全くできていない。早急に立てて何がいけないのか。先程、予算のことが出てきているが、運営の方がまったくできていない。今の市民会館の前を毎日のように通るが、スタッフが暇そうに煙草を吸っていたり、全然賑わっている様子がない。もう少しで閉館だったら、愛着を持ったホールだったら使い倒すということをしてほしい。使い倒すという案は、市民検討委員会の中で何度も出ていたが、床が薄いからダンスは出来ないとか、音が出せないとか、他に響くとか、そんなこんなで何もさせてくれない。私たちは2004年の冬に結成しましたが、年一回のスタンスでホールを盛り上げるイベントを行ってきた。行ってきたにもかかわらず、この状態をどう受けとめているのか。小ホール大ホール両方造るということで市長が言っていたが、造ったところで運営が全くできていない状況では意味をなさない。今の状態で賑わっているのであればいいが、小ホール利用を数年あきらめて大ホールを小ホール利用として新居さんの案を選択するのが堅実的だと思う。

【文化部長】

今回の事態は、私にとってもつらいことである。新居さんと一緒にやってきた2年間、もう少しで3年間になる、思い返して非常につらい思いをしている。ただ、一つだけ言えることは、皆さんの気持ちとして一致していることは、できるだけ早く望まれる施設を造るということであると思う。このことにおいて、皆さんは一致しているのだと思う。今回、新居さんの事が出ているが、私どもの新居さんに対する気持ちも皆さんの気持ちと一緒である。ずっと一緒にやってきたので。ただ、この時点で新居さんの実施設計に対して下された非常に厳しい評価を重く受け止めなければならない。それからもう一つは、新居さんの提案である小ホールを外して整備に進むということが、大きく分けると2つの問題がある。これを選択できなかった理由、一つは小ホールを外してそこから進むことに皆さんの合意が取れるのかどうか、そもそも、基本計画は市民の皆さんが心血を注いで作った物である。それがなぜ、ここで小ホールを外していいと皆さんが簡単に判断できるのかということである。新居さんの提案については説明を受けた。承知はしているつもりであるが、小ホールについては非常に重要な要素であると思っている。だとすると、小ホール無しから出発することは選択できない。それから、もう一つ小ホールを外して73億円であったら、平米単価いくらでしょうか。そのような高い金額の施設を造るということがいいことなのか、どうかというところである。その2点から、我々はこの選択肢を選んだということである。そこをご理解いただきたい。

【市民12】

とりあえず、スタジオについて8間×7間になっていますが、最初、8間×8間でした。8

間×8間にならなかった理由が職員が30名以上集うお部屋があるからです。そんなに職員が必要ですか。

【文化部長】

基本計画の中で8間×8間のプランがありました。これは、何故、8間×8間なのかというと、大ホールの舞台と同じアクティングエリアが練習会場として必要だからということです。

設計を組み立てるプロセスでいうと、そもそも8間×7間ではなくて、7間×7間から出発していました。いろいろな施設構成の中で新居さんとしては8間の間口が取りにくいとのことでしたが、基本計画では8間の間口が練習会場として重要であるとして8間に戻してもらいました。そういう経緯で造ってもらったものであります。このようにご理解してもらった方がいいと思います。

ランニングコストの話がありましたが、前回の意見交換会でひとつお詫びをしました。ランニングコストについて、克明に我々がお示ししてこられていないことをお詫びしました。

市長からも説明がありましたが、当面は直営で行います。市の職員を何人張り付けるかというのがひとつのポイントになります。そこのところについて整理がついていないので、ランニングコストが出来ていないということです。

それはお示ししていかないといけないと感じていますが、直ちに何十人と言うのは一度も言った事はありません。一人歩きするのはおかしな話だと思っています。どなたが言ったのかは分かりませんが、何十人で運営するとは一度もオーソライズされていません。一度も数字でお示ししていないとことについて、是非、そのようにご理解いただきたい。

新しい施設を何人の体制でやるというのは、少なくともオーソライズされていませんので、そうでないと理解していただいた方がいいです。それは、これから作らないといけないこと思う。

【市民13】

今後の方針について聞きたいと思うのですが、入札不調のリスクはないと断定していますが、その答えは先程いただいていません。

それをまず聞きたい。なぜかというと民間事業者の前向きな意向が示されているというが、この民間事業者の対案の中でそんな文章ひとつも出ていない。みんな後ろ向きです。

A社、「コストパフォーマンスを考慮すれば、現在の計画を見直して、PFI方式が望ましいと考える。」

B社、「採算性を精査したうえで、対応を決めていくこととなる。」

C社、「予算内に収まるよう設計事務所が中心となり設計見直しをすることが必要である。」

D社、「事業提案とした場合に参加するかどうかは、要求水準次第である。」

これが前向きなんですか、驚きました。そういう評価の仕方がいかにも行政らしい。

そういうことを考えますと入札不調のリスクを無くすためには、ようするに先程部長もおっしゃっていましたが、業者と話し合いをして基本を決めていくと。ということは事業者の要求を聞きながらということになりませんか。市として実施設計にとらわれない自由な発想

という。明らかに基本的なものを引っ込めていくと。73 億円にまとまる案にしていこうとすることになりませんか。ようするに業者と 73 億円にしましょうと。そのためには私たちの要求も下げましょうと。そういうことになるのではないのですか。そうしか理解できない。

【文化部長】

説明の仕方がまずかったのかもしれません。ひとつは本日お示しした資料は公開について、調査に対応していただいた 4 社の方々が公開に同意した表現の仕方になっています。そのことをお断りしないといけませんでした。

事業提案といいますと、ある程度の自由な提案が出来れば、予算内に基本計画のものが出来るはずの建物である。というご認識が複数者から示されました。というのが、前向きな言い方ととらえているとことである。

もうひとつ、入札不調の話しですが、我々が特定の事業者とお話し合いをして何かを決めていくという意味ではなく、ひとつのやり方として、例えば上限の金額は定めて設計と施工を一体にしたご提案をしていただくという、公募するやり方と説明させていただきました。そのためには要求水準と申し上げているのは、どういうレベル、どういう建物を我々として造ってほしいかと基本計画をベースにしてお示しして、それを 73 億円以内で自分達だったらこうしたらできますよと提案していただく。ご提案によってやっていただくという事を決めて、そうすればそこはプロポーザルあるいはコンペをして優先契約者が定められ、そこと随意契約というプロセスとなりますので、そう意味で入札不調が起きないとご説明しました。

その意味で業者が造りたいように造るのではなく、どういうものを造ってほしいかと、こちらからお示ししてそれを守っていただきながら金額と質を守っていただきながらご提案いただき、ご提案いただいた優れたところに定める。今、目論んでいる手法ですので、業者の言いなりでお金だけを決めている訳ではないとご理解いただきたい。

【市民 14】

今後の方針のところに実施設計にとらわれない。だけど、先程からの市の回答をみれば新居設計さんの実施設計は非常に優れたものだったと評価していますよね。何回も。それでそういう思想、考え方が今後の進め方で生きていくのかどうか。むしろ実施設計にとらわれていかなければならないのではないかと思う。

だから、こういう実施設計にとらわれない自由な発想はどこから出てきたのか。まったく今やっていることは、やろうとしていることは逆の方向に向かっているのではないかと心配している。

9 月 19 日に意見交換会があって、私も聞きに行きました。その時に実施設計の新居さんのいろいろな説明を聞いて、小ホールを兼ねた大ホールそういう設計が可能だということをお聞きして、すばらしいなと思いました。ただ、すぐにそういう方向で進むのかと思っていたら、今回のこういう提案なんですよね。とても理解できません。

設計する費用だって決してばかにならないと思う。分かりませんので、お教えいただきたい。

設計費用はどのくらいかかったのか。設計者に払うものだけでなく、市の職員が関わっていると思うので、その辺の人件費を含めてどのくらいかかったのか。

今回の提案では初めから設計をやり直すようなことになれば、更に相当なお金がかかるのではないかと思う。概算でどの位になるのかお聞きしたい。すべて税金なので、いい加減なやり方で使われてはかないません。その辺を明らかにしてください。

【文化部長】

まず、設計費用は2億円弱である。

そこに費やした様々な皆さんのお知恵やエネルギー、それについては我々は生かしていけると思っている。そういう意味では無駄になるということではないと私は思っています。

設計者に対して我々はリスペクトと、実施設計に対してエネルギーと努力を高く評価するものですが、一方で実施設計に対して事業者側から出された厳しい評価も受け止めなければならない。

もうひとつは実施設計を新居さんは詰めに詰めて来ただけに、見直しだけではコスト的にどうにもならないということで、小ホールの分離という話が登場したんだったと思う。

小ホールの分離案は新居さんも断腸の思いで提案されたと思うが、しかし、私どもとしてはまず基本計画に盛り込まれた市民の皆さんの様々な思いが、そこで無になってしまうのから出発できないのが1点です。

小ホールを分離したとしても、なお、73億円で造れるとすれば極めて高い建物になることである。それでもなお不調のリスクがあり続けていることから、私どもとしてはこの道を選べない理由のいくつかのものである。

そのために事業者の提案といいますか、調査の中で得られた一定の感触、信頼にするに足りる事業者側からあげていただいた、それなりのご回答をいただいている。克明に示せない内容がありますので、先程、ご説明したとおり、確かに調査結果のお示しした資料の中にはなかなかピンとこない表現になっているかと思うが、書けない内容の中で事業者側の反応を私どもとしては感触を得ている。

何よりも入札不調の時に1社しか応札が無かったが、調査には4社出ていました。4社以外で複数者のお話を参加者を通じてお聞きした中で感触を得ている。これ以上申し上げられませんが、そういった点で私どもは今回の選択肢として予算の問題、施設の内容の問題、それから実現に至る期間の問題、実現可能性、4つのポイントで4つの選択肢を比較した時にこの選択肢が最も実現できる、皆さんの思いを実現するのにこの選択肢がふさわしいと判断に至ったという事です。そこをご理解いただきたい。

【市民15】

回答はいりません。これだけは言わせていただきたい。前回の説明会の時は選択肢は4つあげられました。事業提案は最後に提案されました。今回は何か事業提案が真っ先にあり、他はありえないとう格好での説明でした。私は非常に危惧を感じています。事実上の丸投げ状態になるのではないかと。今までの市民検討委員会を加えて作り上げた実施設計を事実上

放り出すのではないかということで、事業提案は私は丸投げではないかと、今までの積み上げをぶっ壊すような働きをするのではないと非常に強く危惧している。

従って、万一事業提案の方向でいくようになっても、今までの市民の検討委員達の積み上げた成果が少しでも生かされるようにこの条件を出すときに、要求を出すときに検討委員会も加えて、集まっていただいてこういうふうな条件を出していきたいという説明会を最低でもしないといけないと思う。それ抜きに始めると大変なことになると思う。

【文化部長】

皆さんのこれまで積み上げてきたことを間違いなく活かさせていただきますし、おっしゃっていただいたことを確実に行いますので、ご理解いただければと思う。

【市民 16】

議論をずっと聞いていると一番気になるのは今後の方針なんです。今後の方針の中で自由は発想による事業提案を軸に整備の可能性を探っていくだけであれば納得します。なんで、実施設計にとらわれないと言うのですか。ずっと、市長の話を聞いて、部長の話を聞いても、非常に実施設計は基本計画を良く聞いて、市民の声も聞いて、苦労していろんな工夫もしていると評価しているにも関わらず、結局、実施設計にとらわれないとなると今後の方針というのは、実施設計を取らないという方針ではないのではないか。

言っていることと、やっていることが違うでしょ。もしやるんならやっぱり今までの設計をやって来た人に、新居さんだって 73 億円でやると言っているんでしょ。そういう工夫はするんだと言っている。何もしないとは言っていない。それなのに何故、実施設計を造ってきたメンバーをはずしてこれからやるんですか。ちゃんと言う事とやる事を一致してもらわないと困ります。もし、どうしてもはずしたいなら、はずしたい理由を言ってください。

【副市長】

先程から何回も説明申し上げていますが、新居さんの設計にこだわってやると 73 億円ではおさまらないという様な意見がサウンディング調査で明らかになりました。

先程、部長がなかなか表現が難しいのでまるめて表現するということで公表してもいいですかという了解のもと、4 社の了解を得て資料を出しているので、なかなか 4 社の意見について読み取っていただけないと思う訳です。

私が申し上げたいのは、4 社の業者の意見からの考えです。

だから、あとは今、現在の平米単価をみても 75 万円／㎡になっています。それを小ホールを除いて造った場合にもっと高い金額になってしまう。おそらく日本中のこういった類のホールでも 3 本の指に入るような高額なホールになってしまうということです。

だから、73 億円の予算の中で大ホール、小ホールも造れるような道を模索したということであります。

【市民 17】

途中から、去年の今くらいから参加ですから、他の皆さんは何年も100回くらいとか参加されている皆さんとは違いますが、4点ほど繰り返しになりますが質問します。

1点、去年の今頃住民監査請求を出して、設計をちょっと待った方がいいかと出しました。それが7月。議会の承認はそのあとでした。その段階で果たして皆さん、20億円の差額はびっくりしたと、朝のテレビというとびっくりぽん。本当に分からなかったのですか。イエスかノーでお答えいただきたい。

それは、分からなかったということであれば、今回の英断というか予算も考えた上での判断で同じようになっては困るのではないか本当に分かったのか、分からなかったのか。

2点目、市民力を実施設計も含めて使うんですか、使わないのですか。先にお聞きした方も公共事業なのか、そうでないのかと思っていたと思う。市民力を使うのか、使わないのか。この意味もやり方と説明の仕方があると思いますが、言えば商売ベースでお願いをすると想定しているのか、想定していないのか、市民力を使うのであれば業者にお願いすることとなるが。

3点目は、時間をかけられないんだと、逆に副市長からは補助金、交付金はゼロリセットになってしまうと言うが、市民の方からの要望は多いので、時間はかけられない、早期にやりたいというお話しでしたが、本当に時間はかけられないのか、かけられるのか。

4点目は、英語の話になるが、サウンディングというのを新聞でしたか、最初に見たのですが、今回の4企業ですか、サウンディングと書いてあるが、途中で調査との話もありましたが、それはインベスティゲーション、専門家の意見も聞いているであれば、オピニオンですが、それをサウンディングと書いてありますが、それはどういう意味なのか、どういう観点からサウンディングとなっているのか。公開できないとなっているなら専門家のオピニオンでもないし、20億円の差がインベスティゲーションでレポートをもらってないということなので、そういう意味でサウンディングだと思うが、私のサウンディングはなんとなく聞いてみた、打診してみたと事前にいろいろお聞きしてみたいと一般的に理解しているが、軽いサウンディングで聞いただけで意思決定をする英断をして、市民力のイエス、ノーを含めて時間をかけられないと含めて、全部を決めたということですか。これが4つの質問です。

質問ではないのですが、資料について、前回の意見交換会に出られなかったのですが、25件の発言のうち、5、6、10、11、12、15、24番のように今まで手を挙げた方、ほとんどがもうちょっと考えたらと言っている。サウンディングで決めた事業方法でやっていくことが疑問だと多いようだが、そういう意味では時間の議論もありますし、大変でしょうが、やはりもう少し時間をかけたり、意見を聞いたりでないと難しいのではないかと一般市民の意見はこの場では分かりませんが、ここに来ている人ももうちょっと考えたらと読めるので時間を使っていただいた方がいいのではないか。

【文化部長】

入札の結果が分かっていたのかというご質問。これは副市長からも申し上げましたが、平米単価でみれば決して不適当に安い予算だてをしている建物でありませんですし、また、入札に臨むにいたって、確かに不確実な要素、経済状況、建設業界の状況もあった中で、人手

不足であったり、資材の高騰など実勢価格が上がっているいろいろな状況の中では確かに不安な要素もないわけでないですが、入札に臨むにあたっては出来る限りの入札不調対策を講じた上で臨みましたので、私どもとしては落札を期待していたものですし、20億円の開きというものはかなり驚きを持って受け止めたものであります。

そのサウンディング調査のことをいうと、サウンディングというのは音を聞くという事で、音波で反応をみるということと思います。最近のニュースではマンションの杭が届いていなかったということで、きちんと届いているのかどうかで、サウンディングの言葉が使われていました。私どもはきちんと入札不調の分析をするべきだったのではないか。そういったご意見も先程ありましが、その入札不調の状況をきちんと分析するうえで事業者から話を聞くことが必要だと考えました。ただ、今後も入札という選択肢があるとなると事業者とむやみにいたずらに接触するのもあんまり好ましいものではないので、公の中できちんとお話し合いが出来て、本音を聞くことができるということでサウンディング調査というやり方を、他都市でも事例がありましたので、そういう中で設定して聞かせてもらいました。

確かに克明な調査ではなく、簡単な聞き取りではないかとご批判もあるかと思いますが、これは会社名や内容の公開にあたっては、合意のもとに発表するということで、公開ではありますが、一定の外には公表しないというものを含んでのことですので、そういう意味で一定の本音も聞けているものであります。

交付金の話ですが、今年度の執行というのが無くなったので、この状況を県と通じて国にも伝えて、整備を続けていく上では、何年度にはいくら交付金が必要なのかなど相談を続けている。

ただ、交付金は芸術文化創造センターの事業だけにもらっている訳ではなく、駅前の事業などがセットです。先程お話がありました3大事業、中心市街地活性化の話もありましたが、そういった大きな計画に対していただいております。計画を修正しながらいただいていくということであります。

副市長から説明がありました、ゼロリセットということは芸術文化創造センターについてのことであり、全体の中では一緒に動いているものがあるので、国から交付金をいただいていく話は続いております。もらえなくなっているのではありません。引き続きもらえる状態は続いている中で芸術文化創造センターの交付金をいただく年次の計画が変わっている状況です。

この計画に年次計画があるので、少しずらすことは可能であっても、数年先まで、例えばオリンピック後にするなど計画自体がゼロになることとなるので、駅前の再開発事業などにも影響がでることもありうることです。芸術文化創造センターだけに留まらない可能性があるということです。交付金の関係は引き続いて行う事が必要であります。

市民力の話は、引き続き市民の皆さんとともにやっていかないといけないと思っております。ハードとともにソフトが関連している市民の活動とともに整備を進めて行くと思っています。

いずれにしても、入札して建設業者を決めるとなっても、市民の皆さんと一緒に作り上げてきたことを、建設業者と一緒に造っていく事になるので、その意味でここで事業者が関与

することで市民力を排除する事にはならないと思っています。

いずれにしてもプロの力、市民の力それぞれあるはずですので、それが一体となって実現することですので、市民力なのか企業なのかとの質問で業者に丸投げではないかと話がありましたが、丸投げするつもりはないですし、皆さんとともに、ただし、必要なところは事業者にやっていただかないといけないことについては、お願いすることになるということであります。

【市民 18】

市民の力をこれからも利用すると言いました。新居さんは最高の人です。ふたりの設計者を葬る、それはやってはいけない。そして、私達の市民は中にはもう関わらないよと言って出て行った方もいました。それは、ホールが出来る以前にここまで頑張ってきた市民の気持ちを萎えさせてしまう。箱ができても機能しなくなってしまう。ですから、私はここまで頑張ってきた市民、職員、設計者の方、専門家も本当に頑張ってもらった。1回、先に進む前に副市長からのお話もあったように、1回戻してもらいたい。市民の意見と専門家の意見、コンサルの人でもいいですし、市の職員、新居さんも含めて1回本当に新居さんの案が駄目なのか、ということを検証して進んでも全然おかしくないでしょ。遅くないと思いますよ。

この説明会でこういう使い方ができますよと300人とかでも。この絵だけだから部長は小ホール、大ホールを切って使ってもどうなるか分からないからと言っているようですが、実際4館から5館では機能しているそうです。ここは小ホールいっぱい使うからダブルだと大ホールの人と困るのではないかと言っていました。本当にデータを出してください。ここもそうですが平土間です。今の小ホールなら駅前のところに出来ましたし。本当に段床の席の人達だけが使えばいいし、ほかの都市では曜日によって市民が使えると。運営なんです。運営で解決できることがうんと多いんです。それで新居さんはどんどんみんなが何がいいか何がいいかと考え、途中、オケピ、ライトブリッジを外したほうがいいとか言いましたが、なかなかそこにはいかず、新居さんの力でほとんど同じような金額にしてしまうのです。ものすごいスペックというが、金額は安くなっています。さっき、高い高いと言いましたが、不調の時には平米単価100万円でしたが、今は84万円まできていますから69億円に落とせるんですと実際に行って聞いてきました。この書類ももらって今だったら頑張って積算して受けてくる業者もいるんだと。何で排除してしまうのかと。それはおかしいいし、高いからやめたとか、その前に新居さんの所に行って、市長も朝から晩まで私たちは何時間もやっていますが、ちょっとしか来ていないから本当に分かっているのかと思う。新居さんとしっかりと5時間でも6時間でも。副市長さんも行ってくださいよ、しっかりと。途中から入られているからこの機能の素晴らしさが分からないと思う。機能が素晴らしいだけでなくて、そういう本当にお金がかからなく、無料で使えて、小さな所から大きな所まで使えるものなのです。そういう機能とかを知っているのに何で切ってしまうのですか。

本当に私が言いたいのが、この小ホール機能が本当に使えないのか。実際何館かあるのだから見てきてほしい。新居さんが金額を落とせないといったのは私達と2年半頑張ってスペック、いろいろなものが欲しいと言ったことを部長が来たからって、下げられませんと言っ

た。みんながいらないといったら下げます。外壁だって勝手にやった訳ではない。リブを付けたのも景観委員がのっぺりだと駄目だから付けた方がいいと。いらないなら1億円下げますと言ってくれている。そう言ってくださっているいろんなものを本当に必要なものかどうかやってみて、それでも新居さんの案が73億円で不調に陥りそうだったら、今度は事業提案でやったらいいじゃないですか。順番が絶対違う。市長もおかしいし、市民派で出たのなら絶対に。私達と市民検討委員は選ばれている。ちゃんと公募で。こういう人の意見をちゃんと聞いて専門委員の方はあんなに真剣にやってくれた。私は全部出ましたから。金額の時だけ非公開でしたが、全部出ました。本当に一生懸命やってくださった。誰も本当にまじめにやらなかった人はいません。やっぱり、1回戻してもらって、これをやめるなとはいいませんよ。だけど1回私達と検討委員の人達と専門委員と市の方と新居さんと。部長に聞きますが、新居設計の案は白紙撤回なのですか。お聞かせください。そうしたらもう私達はあなたたちと関わる必要ないし、ここまで頑張ってきた市民を愚弄していると思うし、加藤さんは市長でいる資格はないかもしれない。今後、1回私達の意見を聞いてくれたら加藤さんは加藤さんでいられると思います。

そこはちゃんとやってください。戻してもらえるのか。いいですよ、事業提案をやっても。そのまえに何の話もなく、ほかの専門委員の方にも聞きました。部長からこうなりましたと1本電話があっただけ。展示の人がどのくらい頑張ったことか。そんな苦労も一瞬に終わってしまう。でも1回話せば不調にならない可能性があるのに探らない。おかしい。まず1回戻して、私たちと初めてきた市民を入れると分からないから、まず本当にこれができるかどうか、市民委員と専門委員、関わった人達、設計の人、そういう人達を呼んで、同じところで話させてください。それで削れるものがない、不調でどうしようもないと思ったら次に進んだらいいと思います。新居さんだって何が何でも造ると言っていない。本当に皆さんが望んでいないなら僕の案はいいんだ。だけども本当に皆さんが話し合ったことは望んでいると思うから今やっぱり皆さんと一緒に造りたいと言ってくださった。ですから、そこに1回戻ってほしい。事業提案をやめろとはいっていない。1回、新居さんたちと私達で話させてください。本当に何十年も、どれだけ望んでいたか。

ようやく出来ようとしているのに。お金だけでやってはだめ、心が消えてしまう。市長はそのために出たのではないのだから。

やってもらえるかどうか。新居さんの案は白紙撤回ではないのかどうか。その2点だけお聞きしたい。

【文化部長】

今回のことについては、新居さんとも何度も話をさせて頂いた。整備推進委員会が開かれたのは1回だけだが、個別にはいろいろ意見交換はさせていただいた。ですから、そういった材料を得て、今回の方針は実現可能性を探るために市長が決断したものである。ただ、皆さんにこれから進めていく上ではご理解を頂く場面を作りたいと思っている。私が逆に理解できないのは、なぜこの方針が心が籠らないとなるのか。皆さんの気持ちを理解しているつもりである。それを生かしていくために前に進ませようとしているわけです。その為の方策

だと理解していただきたい。そこが説明不足であるならば、理解いただける場面は作らせて頂きたい。

話し合いが十分でなければそれはやらせていただくつもりです。そこは約束しますが、ただ、私達が実現したいのは出来るだけ早い時期にコストを守りながら皆さんの望む形に着地することです。そのために選ぼうとしている道がこれだというふうに私は確信を持っています。

申し訳ないのですが、新居さんの案では実現が難しいと思います。そういう判断をしたからこの方針を選んだのです。だけど、これは心が籠らない施設とはイコールではないと思います。

【市民 19】

いろいろお話を伺いまして、今、市が決めようとしている方向は今後の対応の 4 つの選択肢の設計見直しにほぼ近いのではないか。それを民間企業者にやらせようとしているのではないかと受け止めました。正直言って、民間事業者に事業提案させた場合に、今の仕様、大ホールの配置とか小ホールの配置とかそういったものは新居千秋都市建築設計の了解を得ない限り同じような配置は取れなくなるようになると思う。事実上、まるっきりゼロからの設計の見直しになって、そうした場合に、専門家の目で見ない限り何がメリットなのかデメリットなのか見極めつかないのではないか。私は新居さんの提案というのはある意味もっとも現実的だし、理にかなっていると思っていますが、やはりこの時期、もう一度新居さんの分割案それから 4 社が出してきている案これをこれまで関わってきた市民、専門委員、アドバイザー、新居さんを含めて一堂に介して民間事業者の案もすべて開示して、やはり公の場できちんと議論すべきだと思うのです。やはり、市民ホールはこれから 50 年間近く市民が使う施設ですから、市民の理解と合意形成、それを図りながらこの事業を進めるべきだと思うのです。そういう意味でさっき言ったような場を設定すべきだと思うのです。それについて、お伺いします。

【文化部長】

いずれにしても進めるうえで専門家の視点は当然必要です。我々だけで、建築職が関わるにしても専門家の方々の関与はこれから先に進めて行くうえで重要だと思っています。

これまで関わっていただいた皆さん、今回来ていただいてご意見をいただいた皆さんの意見はごもっともだと思っています。

運営が重要だと言う話、これからランニングコストの話もその通りだと思います。いずれにしてもご理解をいただく場面を作ることはやぶさかではありません。ただ、お話のようなメンバーで克明なお話をするのが馴染まないこともあるので、そこは少し作り込み方は考えさせていただきたい。ご理解をいただく場面は是非作りたいと思います。

5　閉　会